

歴史を学び、強い体質を創りましょう

「十九世紀のはじめ、日本農業は、実に悲惨な状態にありました。二百年の長期に渡って続いた泰平の世は、あらゆる階層を問わず人々の間に贅沢と散財の風をもたらしました。怠惰な心が生じ、その直接の被害を受けたのは耕地でありました。どの村にもひどい荒廃が見られ、正直に働くことのわずらわしくなった人々は、身を持ち崩すようになりました。代わって、望みない生活を維持するため、相互にごまかしあい、だましあって、わずかの必需品をそろえようとなりました。『自然』は、その恥ずべき子供たちには報酬を与えず、ありとあらゆる災害を引き起こして、地におよぼしました。そのとき、『自然』の法と精神を同じくする、一人の人物が生まれたのです。」これは、内村鑑三の「代表的日本人」二宮尊徳の一節です。

今、まさに当時の風潮に近いものがあると、心あるリーダー、社長は、感じておられるのではないのでしょうか。

当時の「天明や天保の大飢饉」に相当するもの、否それ以上のものが、近々に予想される『南海トラフ巨大地震』です。泰平の世とは、平和ボケした日本人です。

正直に働くことをわずらわしいと思うのは、『働き方改革』という、本来、日本人の美德とされた仕事を価値あるもの、生き甲斐と感じていたものを、全く逆に「苦役」「苦痛」と捉え、誤魔化し、騙す、卑怯な態度に貶めてしまいました。

心ある京都大学の藤井聡教授は、「大規模国債発行で日本強靱化を」と、防災・強靱化投資を、訴えておられます。しかし、残念ながら、まだまだ少数派であり、財務省の頭の固い官僚の壁を打ち破る事が難しい現状です。

ならば、我々実務家は、何をすべきでしょうか。

社長は、経営の目的である「社員の命と生活を守る」ことにあります。

どんな場合でも『まさか、こんなことが起こるとは』とは、言わないことです。迂闊さを表明しているだけです。

具体的には、耐震性能の向上や建て替え、場合によっては立地の変更も考える必要があります。

避難訓練・消火訓練、飲料水・非常食の備蓄・ヘルメットや長靴、毛布等の準備。

火災保険・地震保険の早急な見直しも大切です。

時間は、かかりますが、利益を出し、現預金を蓄積することです。

一番大切なことは、日頃からの、心の準備・教育です。

なぜ、利益が必要なのか、なぜ、仕事に全力で取り組むのか、なぜ、長期的スパンで考えなければいけないのか等々を、計画的・定期的に社長が語っていくことです。社員さんの、一人一人が、真に仕事観・使命観・人生観を持ってくれることでこそ、日本の将来が明るく拓けると思っています。

仕事は、楽しく面白いものだ、人のために役立つことが生きる目的だ、と、目を輝かせる社員さんを何人持つかが、社長の財産であり、仕事の評価でもあります。



今月のポイント

社長の辞書に「まさか！！」は、  
ないと心得うべし。